



パネルディスカッション
－「子どもの貧困」を考える－
参加申し込み受付中です



ターゲット 1.2

令和5年1月17日
郡山市子ども部
子ども政策課
課長 伊藤 恵美
TEL：924-3801

SDGs ターゲット1.2 「あらゆる次元の貧困状態にある、すべての年齢の男性、女性、子供の割合を半減させる」

令和4年7月、市内の小中学生とその保護者約6,000人を対象に実施した子どもの生活実態と家庭環境についての調査結果をもとに、パネルディスカッションを開催します。

- 日時 令和5年1月31日(火) 午後2時から午後4時まで
- 場所 市役所特別会議室(本庁舎2階)
- テーマ 「子どもの貧困」を考える－郡山市子どもの生活実態調査の結果から－
- パネラー 湯浅 誠 氏

NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ理事長
東京大学先端科学技術研究センター特任教授



湯浅 誠 氏

遠藤 洋子 氏
つばさ会子ども食堂代表

鈴木 綾 氏
特定非営利活動法人こおりやま子ども若者ネットワーク理事長

郡山市子ども部子ども政策課職員

- 参加申し込み 1月27日(金)までにメールまたは簡単電子申請でお申し込みください。
(メールでお申し込みの際は、お名前、電話番号を明記してください)

●メール：kodomoseisaku@city.koriyama.lg.jp

●簡単電子申請 →



【郡山市子どもの生活実態調査】

- 調査の目的 本市における子どもの生活・家庭環境の実態を把握し、課題解決に向けた仕組みづくりや、新たな政策等を検討する。

- ・調査対象 市内全小中学校の小学5年生・中学2年生およびその保護者から抽出

	子ども	保護者
小学5年生	1,500人	1,500人
中学2年生	1,500人	1,500人
計	6,000人	

- ・調査時期 令和4年7月
- ・調査方法 各学校をとおして調査票を配布、回収（回収率約90%）
- ・調査結果の概要
 - （1）母子世帯の平均所得は、全世帯の平均所得の半分に満たない実態が分かった。
 - （2）困窮世帯の保護者の8割以上は仕事をしており、いわゆる「ワーキングプア」といわれる実態が確認できた。
 - （3）生活困窮度が高いほど、子どもの授業の理解度が低くなる傾向があり、特に中学生になるとその差が顕著になることが分かった。
 - （4）生活困窮度が高いほど、習いごとをしている子どもの割合は低い傾向がみられた。
 - （5）生活困窮度が高いほど、「子ども食堂」を利用したいと思う子どもの割合が高い傾向がみられた。

本市では、令和4年7月に宣言した「ベビーファースト」の理念のもと、誰一人取り残さない社会の実現に向け各種施策を展開しております。皆様に御協力いただきました当該調査結果を活用し、新たな事業の構築など、生活・家庭環境の改善に向けた取り組みを推進してまいります。

- ※ 本市ウェブサイトから調査結果報告書をご覧ください。
また、どなたでも統計の分析ができるよう、各集計用データをダウンロードすることもできますので、ぜひ御活用ください。

<https://www.city.koriyama.lg.jp/soshiki/80/62993.html>



パネルディスカッション「子どもの貧困」を考える

—郡山市子どもの生活実態調査の結果から—

郡山市が令和4年7月、市内の小中学生とその保護者約6,000人を対象に実施した子どもの生活実態と家庭環境についての調査結果をもとに、パネルディスカッションを開催します。

- 1 日時 令和5年1月31日（火）午後2時から午後4時まで
- 2 場所 市役所特別会議室（本庁舎2階）
- 3 申し込み 1月27日（金）までに、簡単電子申請またはメールにてお申し込みください。

簡単電子申請 →



メール：kodomoseisaku@city.koriyama.lg.jp

※メールの場合はお名前と電話番号を明記してください。

パネラー

認定 NPO 法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ理事長

湯浅 誠

（ゆあさ まこと） 東京大学大学院博士課程単位取得退学後、1990年代よりホームレス支援に従事。2008年末の年越し派遣村村長を務め、2009年から3年間内閣府参与に就任し、内閣官房社会的包摂推進室長、震災ボランティア連携室長などを歴任。現在、東京大学先端科学技術研究センター特任教授。『つながり続ける子ども食堂』（中央公論新社）など、著書多数。



パネラー

つばさ会子ども食堂代表

遠藤 洋子

（えんどう ようこ） 「子どもの未来は明るいはず」と信じていた教員時代。退職後、子どもや女性の貧困に関する報道に接して、「なんとかしなければ」との思いから、2017年「つばさ会」を立ち上げ、地域公民館で子ども食堂を開始。さらに地域の要望にこたえ、市営住宅の集会所でのお弁当配布も実施している。市内の子ども食堂のトップランナー。



パネラー

特定非営利活動法人こおりやま子ども若者ネットワーク理事長

鈴木 綾

（すずき りょう） 学校現場に務めているときに、貧困や家庭の事情で退学していく子どもたちと出会ったことをきっかけに、フリースクールや青年期の若者の居場所づくり、就労支援などに10年以上携わる。2018年、市内の子ども・若者支援に取り組む30以上の民間団体・個人で構成するネットワークを立ち上げ、現在、社会的包摂をテーマに郡山市との協働事業に取り組んでいる。



パネラー

郡山市こども政策課

主催：郡山市こども政策課
お問合せ：024-924-3801

申込み：簡単電子申請 QRコードから →

メール kodomoseisaku@city.koriyama.lg.jp

